小児外科

1. 小児外科の特色

小児外科の診療は、新生児から 15 歳までの脳神経・心臓・整形外科領域を除いた頚部から胸部、腹部、泌尿器に至る疾患を対象とし、外傷や悪性腫瘍にも取り組んでいる。また、整容性の高い内視鏡外科手術を、日本内視鏡外科学会技術認定取得者のもとで積極的に導入している。小児の成長発達にも配慮した安全で侵襲の少ない、しかも Quality of Life を念頭においた治療を目指している。

当科は 1994 年に診療科として発足。1998 年 10 月にはクリーンルーム、プレイルームを完備した新病棟へ移転した。その後、2007 年 4 月から小児科との共用病棟へ移転。2008 年 12 月に 3 フロアーを改修し、産科・新生児科・小児科・小児外科で成育医療センターを発足させた。その結果、連携がより密となり、充実した内容の小児医療の教育を受けることが可能となった。近年は埼玉医科大学国際医療センターと連携し、悪性腫瘍症例も多く扱っている。

2. 診療実績

年間手術数は約 250 例である。また、新生児外科症例は、年間 15 例程度を経験できる。

3. 初期臨床研修の魅力

小児外科は、成人の外科診療と異なり細分化されていないため、全身管理や、急性、慢性すべての外科疾患を扱い、時には小児科的な知識や治療をおこなうこともある。また、周産期センターの一員として、新生児治療だけでなく胎児診断から関わったり、重症心身障がい者施設（光の家療育センター、埼玉療育園）とも密に連携し、重症心身障がい者の外科治療も行っている。さらに、疾患をもった児が成人期に移行するまで、長く、幅広い診療を行う。小児科、新生児科、産科をはじめ、関係他科との連携も良好で、合同のカンファレンスや手術などにより、多くの知識や技術を取得できる。研修は大変であるが、小児の外科的なプライマリケアを身につけることができる。

4. 週間スケジュール・プラン

	午前	午後	夕方
月	手術	手術、病棟業務	周産期カンファレンス 術後カンファレンス 抄読会（月 1 回）
火	小児画像カンファレンス 外来検査	病棟業務 外来検査	
水	手術	手術、病棟業務	術前カンファレンス 医局会
木	外来カンファレンス 病棟業務	病棟業務 外来検査	
金	病棟スタッフカンファレンス 病棟業務	病棟業務	
土	病棟業務 手術（月 1 回）		

①卒後 1～2 年：初期研修医ローテイトの一環として研修を行う。
②卒後 3～4 年：後期研修医（外科系）ローテイトの一環として研修を行う。

一般学習目標(GIO;General Instructional Objective)

小児外科疾患の基本的診療を行うための、知識・技能および態度を習得する。

個別目標(SBOs;Specific Behavioral Objectives)

1. 小児外科疾患の診断に必要な問診、身体診察を行うことができる。
2. 小児外科疾患の臨床検査法(*)の選択と結果の解釈ができる。
3. 小児外科疾患の基本的治療法(**)を選択し、確実に実施できる。
4. 小児外科疾患に対する小手術を確実に実施できる。
5. 患者の状態を的確な医学用語を用いて表現できる。
6. 医師として、社会的および職業的責任と医の倫理に立脚してその職務を遂行できる。
7. 患者、家族ならびにコメディカルスタッフと好ましい信頼関係を構築することができる。

研修方略 (LS;Learning Strategies)

1. 病棟では上級医のもとに、次のような検査、治療を経験する。
   a. 臨床検査法(*)：採血、超音波検査、消化管造影、膀胱造影、直腸内圧測定、直腸粘膜生検
   b. 基本的治療法(**)：術前・術後管理、水分電解質管理、呼吸管理、感染予防、栄養管理
2. 担当医となり指導医のもと、下記の処置・手術を実施する。臍ヘルニア根治術、腹腔鏡下虫垂切除術、腸重積非観血的整復（腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術）
3. 週 2 回の術前・術後カンファランス、毎日の夕回診において、入院患者の病状の変化、治療方針について報告を行う。
4. カルテおよび手術記録を、適切な医学用語を用いて記載する。
5. 患者・家族に病状を説明するとともに治療の同意を得る。
6. 症例検討会(院内、院外)、研究会、学術集会で演者として症例報告を行う。

評価方法(EV;Evaluation)

研修終了時に、研修終了時に研修担当指導医による評価を受ける。EPOC2 評価項目の他、個別目標の達成度につき、本人および評価者と確認する。また、下記項目について自己評価をする。研修担当指導医は随時、下記項目について評価をし、不足している部分については達成を援助する。

1. 上級医の指導の下で、患者の診察、患者へ必要な指示および処置ができる。
2. 適切な輸液管理ができる。
3. 指導医や他科の専門医に適切にコンサルテーションできる。
4. 症例提示ができ、チーム医療のメンバーと討論ができる。
5. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。
6. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。
7. 手術に伴う危険因子を理解できる。
8. 手洗い、ガウンテクニック、術野の消毒などの清潔操作が正しくできる。
9. 術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。
10. 小児外科的な栄養管理の知識をもち、実践できる。
11. 適切な医学用語を用いてカルテおよび手術記録を記載できる。
12. 患者・家族やコメディカルスタッフと良好な信頼関係を構築できる。

研修に関する問合せ先

小児外科医局 049-276-1654
診療部長/教授：田中裕次郎(PHS41-8284)